

鹿児島県柔道会だより

■発行人/北 哲郎 ■編集/総務部編集委員会 ■発行/財団法人鹿児島県柔道会(電話 099-222-7770)

・さわやか伊佐県体柔道競技

★鹿児島地区が優勝!

平成21年9月20日(日)

伊佐農林高等学校体育館

▽ 予選リンク 川辺3-1揖宿, 川薩3-1川辺, 始良4-1川薩, 始良2-1熊毛, 鹿児島2-1熊毛, 鹿児島3-1出水, 出水4-1伊佐, 日置4-0伊佐, 日置2-1大島, 曾於2-1大島, 肝属3-0曾於, 肝属3-1揖宿

▽ 決勝トーナメント

準決勝 肝属 4-0 日置

鹿児島2-1 始良 (代表戦)

決勝 鹿児島3-1 肝属



・鹿児島県体育協会表彰者

【体育功労者】

1 田中総一

長年にわたり本県柔道の振興に尽力し、多大の貢献をした。

2 山田龍一

長年にわたり本県柔道の振興に尽力し、多大の貢献をした。

【県社会体育優良団体】

1 鹿児島市柔道会

鹿児島県や鹿児島市の柔道の普及発展に多大の貢献をした。

第3回少年部指導者研修会 及び強化練習会」報告

少年柔道の振興と柔道人口を増やそうというねらいで始まった第3回目の少年部指導者研修会及び強化練習会が、7月19日(日)鹿児島アリーナ武道場と会議室で開催された。

県内の各支部から約97人の指導者と少年部の県指定選手等110名が参加し、指導者研修会と強化練習会が、会場を分けて並行して行なわれた。

指導者研修会では、北哲郎会長が、開会の挨拶で、少年教育の重要性と柔道がそれに果たす役割についての話があった。

次に、5月の全国少年大会に初出場した西之表黒潮柔友会の野平道実監督が、全国大会での貴重な体験など報告があった。

研修では、「少年柔道の現状・課題について」少年部は、田邊侑氏が「少年柔道の抱える課題の解決策」。中・高校部は、田原幸一氏が「中学校・高等学校柔道指導の課題について」というテーマで、課題とその解決策について発表し、その後、研究協議が行なわれ、少年団の指導者たちは、研修を深めた。

その他少年部の事業として、「形」コンテストの導入や登録の推進について、話し合いがなされた。

最後に、「柔道における安全指導」の演題で、全日本柔道連盟の佐藤幸夫先生の講演があり、少年団指導者の研修会が終了した。

強化練習会には、県内の強化指定選手(4年生以上の小学生男子24名、女子24名)と各少年団の選手代表が集まった。

指導は、西郷昌隆氏と西有生央氏が担当し選手たちは、寝技や技の研究・自由練習に熱心に取組み汗を流した。

(支部だより 6)

「奄美支部の概況」

奄美支部長 田川 盛二

奄美支部の役員は、奄美柔道協会の役員が奄美支部役員を兼任することで今日に至っております。

奄美柔道協会は、戦後間もない昭和23年に設立されました。初代会長は、野口文章先生、2代目 重信武光先生、3代目 佐里原慶寿先生、4代目 三谷武円先生、5代目 亀井源治先生、6代目 林慶二先生、7代目 山田敏則先生、8代目 吉見憲治先生、9代目 林慶二先生(2回目)、10代目 田中昭男先生、11代目 山田久雄先生、12代目 当正義則先生、13代目の田川盛二が現在の会長を務めています。

歴代会長が、鹿児島県柔道会奄美支部長を兼任することにしており、県本部の評議員に奄美支部から3名が指名されています。

奄美支部は、県本部の指導を仰ぎながら柔道振興のために尽力しています。

奄美の柔道普及・振興は、奄美柔道協会の道場を拠点として、柔道の指導に会員が担当しています。

協会では、大島地区における各種大会(スポーツ少年団大会、中学校大会、高等学校大会、郡民体育大会等)に審判員や役員を派遣しています。

中学校や高等学校へ柔道を専門とする体育教師の派遣が少ないのが残念な気がします。

昇段試験には、県本部から審議員の先生が来られて地元の役員と一緒に審査されます。

平均合格率は、80%前後。毎年受験生は、中学生と高校生で、初段と二段が多く、初段が、30数名。二段が4~5名受験しています。残念ながら、毎年、受験生が減少しています。奄美大島の柔道人口を今後どのようにして増加させるかが、私共に課せられた大きな課題です。

現在、協会の道場で週3回(火・木・土)少年部の指導育成に取り組んでいます。この少年部指導の歴史は長く、昭和25年頃から

始められていて、今日に至っています。歴代の会長が直接指導に当たっています。

最近の青少年は、野球やサッカー等のチームプレーのスポーツに興味があり、柔道のような個人プレーのスポーツにはあまり興味がないようです。柔道に興味を持てるようなアイデアがあれば教えて頂きたいものです。

奄美支部においては、第3回奄美警察署管内防犯少年柔剣道大会を実施する予定です。今年からは、瀬戸内警察署管内も合流して大会を実施するように計画しています。

このような柔道大会の機会を多くする事によって子供たちの柔道に対する興味・関心も高まり、柔道人口の増加と青少年の健全育成にも繋がるものと考えています。

県柔道会北哲郎会長の「県柔道会だより」で度々言っておられる「柔道を通しての人づくり」、「柔道ルネッサンスの推進」、「武の国薩摩の復活」などに敬服の念を強く致しております。北哲郎会長の理念が今後とも県下の柔道をはじめ、全国に普及されることを期待して結びとします。

(支部だより 7)

薩摩川内市柔道会「川内支部」

ここに有り!

川内支部評議員 平 善行

私共川内支部の活動としまして御報告します。

川内支部の場合、地域によって各柔道会が別れておりまして、「薩摩川内市柔道会」宮之城の「さつま町柔道会」、甕島の「里柔道会」と3本の大きな柱から成り立っている。

市町村合併の時、これらの柔道会をひとつにまとめようとしたが、それぞれの柔道会の中に各会長以下の組織が在り、それぞれ特色の在る活動をしている関係で、一応川内支部で薩摩川内市柔道会に所属という形を残した。

各柔道会の活動と柔道大会は、

○ 薩摩川内市柔道会

・ 鏡開き式

1月

- ・ 嶋田旗少年柔道大会 3月
 - ・ 山口貫十旗中学校新人柔道大会 12月
 - さつま町柔道会
 - ・ 菊水旗少年柔道大会 9月
 - 里柔道会
 - ・ 里少年武道大会 2月
- で、それぞれ特色のある大会です。

平成21年度の川内支部の登録者数は、指導者登録者数31名。競技者登録数179名(一般15名、高校20名、中学校93名、スポーツ少年団51名)。数年前から、登録料が上がったのと事務局の努力不足もあり、登録者を増やす面で苦労している。現在、自衛隊川内駐屯地の柔道部が協力して貰い、登録を含め支部として助かっている。

昇段試験は、年2回。8月と1月に、れいめい高校武道館で、実施し、試験前の1週間に講習をしている。

川内支部(薩摩川内市柔道会)を語るには故平田良吉先生、故森山貫十先生、そして、現在県の顧問である嶋田武夫先生を挙げなければならない。

平田良吉先生は、戦前に天皇陛下の御前試合で優勝し、柔道日本一の榮譽に輝かれた。その後、武徳専門学校の教授をされ、戦後は、川内市で整骨院をされていましたが、地元の有志が平田先生の柔道指導を仰ぐために資金を集め、柔道場を建設しました。平田先生は、山口貫十先生、嶋田武夫先生等と共に現在の薩摩川内市柔道会の基礎を築かれたのです。昨年、第1回の「嶋田旗少年柔道大会」を開催したが、その前までは、「平田旗少年柔道大会」として27年間続けたものを「嶋田旗少年柔道大会」と改称したものです。山口貫十先生の大会は、中学校新人大会として実施している。

川内支部の自慢は、毎月10日の会合で、「十日会」と名付けられている。早く言えば「飲ん会」ですが、柔道会の行事、運営、連絡など全てこの時に行なう。年配者と現役の若い選手が一緒になって飲んで柔道のあり方を熱く語っている。

ここ数年、自衛隊川内駐屯地と薩摩川内警察署の柔道部の参加協力もあって、大会を

め登録の面でも助かっている。

柔道会が盛り上がるためには、県民体育大会や妙円寺詣り大会で良い成績を取ること。この一言に尽きる。昨年の妙円寺詣り大会で35年ぶりの優勝。最高の喜び。大会には多くの先輩方が応援に駆けつけて選手を激励し結果については、皆が集まり飲みながら肴にする。これで纏まる。嬉しいのは、緒戦敗退とか上位にいけなかった時の更なる励ましが一番有り難く、効き目がある。

現代社会のすさんだ現状、大人も子供も日本の礼儀作法を忘れてしまった現在、これらを立て直すのは、柔道しかない。子供たちが大人になり、社会に出た時に柔道を経験していた人間は、やはりどこかが違う。こういう子供たちを今育てていかなければならない。底辺の拡大と柔道人口を増やすこと。これを第1歩と考えて、日々頑張っていきたい。

(道場だより5)

「西之表黒潮柔友会」の歴史と

現状について

西之表黒潮柔友会代表指導者 野平道実

種子島の北部に位置する人口約1万8千人の西之表市。この会は、平成2年2月に柔道愛好会として産声を上げ、徐々に会員数を増やしなが、平成13年10月に「西之表黒潮柔友会」と改名し、現在に至っています。

市内では、唯一の柔道少年チームであり、市内の各小学校から集まる子供たちが、週3日、1日2時間の練習に汗を流しています。最近、会員数が減ってきてはいますが、多い時には40名を超える会員を抱えた時期もありました。

現在の練習は、基本的には子供たちの経験年数に応じて、初級・中級・上級クラスに分け、5人の指導者がそれぞれのクラスに別れて指導に当たっています。人数が少ない中での練習が続くだけに、変化を持たせ、そして実力アップを図る意味で、ひと月に1回の中学生との合同練習を組み入れています。

日頃の練習の成果を見るために、各種大会

への参加を年間行事の中に組み入れています。離島であるが故に、本土への大会参加負担も大きく、県レベルでの大会参加を主として最小限に抑えています。現在は、県本土での大会に年4回参加。外に種子島の大会が2回、自分のチーム主催の大会が1回となっています。

このように試合経験も少なく、少人数というチーム事情の中で、今年、子供たちがとても嬉しく楽しいプレゼントをしてくださいました17名という少ない会員の中で、たまたま5年生6年生に力のある子供たちが揃い、2月の県新人大会では、当チームにとって県大会レベルでは初めての団体優勝を成し遂げ、5月の全国大会出場が決定。柔道家憧れの地講道館での大会参加をすることが出来ました。出ては負け、出ては負けての発足当時の弱小チームの頃を思うと、まるで夢のようです。この喜びに浸っていると同時に、このような素晴らしいプレゼントをしてくれた子供たちにとっても感謝しています。

できれば、この喜びに長く浸っていたいのには山々ですが、厳しい力の世界、そんなに甘くないのも重々承知しています。

これから、子供たちの力がどこまで通用するか分かりませんが、今回の全国大会参加を自信として持ち、奢ることなく、更にチャレンジ精神を持って、今後のチームづくりとチーム力の向上に頑張っていきたいと思えます。

最後に、今一番の悩みは、年々、会員数が少なくなっていることです。今回の全国大会出場で、関心と興味を持つ子供が増えたのではないかと期待しているのですが、なかなか思うようにはいきません。何かうまい勧誘方法があったら教えて頂きたいものです。

各種大会の成績(6月～9月)

・県ジュニア体重別選手権大会

6月6日(土)鹿児島アリーナ武道場

- ◇男子(60kg級)
 - 1位 鞘脇 健太(れいめい高等学校)
 - 2位 中野 圭亮(鹿屋体育大学)
- ◇男子(66kg級)

- 1位 魚山 皓平(鹿屋体育大学)
- 2位 豎山 将(鹿児島情報高等学校)
- ◇男子(73kg級)
 - 1位 山田 泰裕(甲陵高等学校)
 - 2位 池田宏次郎(甲陵高等学校)
- ◇男子(81kg級)
 - 1位 勝見 拓登(鹿屋体育大学)
 - 2位 地藏 拓郎(鹿児島工業高等学校)
- ◇男子(90kg級)
 - 1位 大町雄一郎(鹿児島大学)
 - 2位 末永 良太(甲陵高等学校)
- ◇男子(100kg級)
 - 1位 大王 光貴(鹿児島商業高等学校)
 - 2位 田中 成司(鹿児島情報高等学校)
- ◇男子(100kg超級)
 - 1位 土屋 潤(鹿児島商業高等学校)
 - 2位 枝元 優樹(鹿児島商業高等学校)
- ◇女子(48kg級)
 - 1位 森崎由里江(鹿屋体育大学)
 - 2位 豎山 優(鹿屋体育大学)
- ◇女子(52kg級)
 - 1位 鮫島佑梨子(鹿児島南高等学校)
 - 2位 安達 莉穂(鹿屋高等学校)
- ◇女子(57kg級)
 - 1位 富濱 綾香(鹿児島南高等学校)
 - 2位 森本明日美(鹿屋体育大学)
- ◇女子(63kg級)
 - 1位 古賀ちなつ(鹿児島南高等学校)
 - 2位 上松 瑞穂(出水中央高等学校)
- ◇女子(70kg級)
 - 1位 小原 希実(鳳凰高等学校)
 - 2位 岩岡 友望(出水中央高等学校)
- ◇女子(78kg級)
 - 1位 豊永 祥子(鹿児島南高等学校)
 - 2位 蔵園めぐみ(鹿児島南高等学校)
- ◇女子(78kg超級)
 - 1位 稲森 奈見(鹿児島南高等学校)
 - 2位 吉野 光(鹿児島南高等学校)

・県下中学校柔道大会

6月7日(日)鹿児島アリーナ

- ◇団体戦(男子)
 - 1位 末吉中学校
 - 2位 中種子中学校

<p>3位 舞鶴中学校 3位 鹿屋東中学校</p> <p>◇団体戦(女子)</p> <p>1位 舞鶴中学校 2位 帖佐中学校 3位 重富中学校 3位 川内中央中学校</p> <p>◇個人戦(男子)</p> <p>1位 竹下 恭平(末吉中学校) 2位 下村 柔悟(田崎中学校)</p> <p>◇個人戦(女子)</p> <p>1位 岡村 舞子(南九州別府中学校) 2位 寺師 里奈(吉野中学校)</p> <p>・全九州高校総体(柔道競技)</p> <p>★鹿県男女2位, 3位</p> <p>6月20日(土), 21日(日) 別府市総合体育館</p> <p>◇男子団体戦2位甲陵高等学校</p> <p>◇男子団体戦3位鹿児島商業高等学校</p> <p>◇女子団体戦2位鹿児島南高等学校</p> <p>◇女子団体戦3位鳳凰高等学校</p> <p>◇男子個人戦(100kg超級)</p> <p>1位 土屋 潤(鹿児島商業高等学校)</p> <p>◇女子個人戦(63級)</p> <p>3位 古賀 ちなつ</p> <p>◇女子個人戦(70kg級)</p> <p>3位 稲森 美咲(鹿児島南高等学校)</p> <p>◇女子個人戦(78kg超級)</p> <p>3位 吉野 光(鹿児島南高等学校)</p> <p>・県下少年学年別柔道大会</p> <p>6月20日(土) 鹿児島アリーナ武道場</p> <p>◇男子4年生(40kg級)</p> <p>1位 加藤 輝(柔心館) 2位 清水 颯汰(清原)</p> <p>◇男子4年生(40kg超級)</p> <p>1位 大脇 充倫(正道館) 2位 安達 乃真(光武館)</p>	<p>男子5年生(45kg級)</p> <p>1位 内村 光暉(光武館) 2位 福満 賢(市来)</p> <p>◇男子5年生(45kg超級)</p> <p>1位 半渡 賢太(南界) 2位 美園 篤也(西之表黒潮)</p> <p>◇男子6年生(50kg級)</p> <p>1位 竹之内 岳(加世田) 2位 高吉 俊章(国分西)</p> <p>◇男子6年生(50kg超級)</p> <p>1位 中西 将太(末吉) 2位 松元 健太(米倉柔道館)</p> <p>◇女子4年生(35kg級)</p> <p>1位 栗野 あおい(枕崎) 2位 豊永 華純(講進館)</p> <p>◇女子4年生(35kg超級)</p> <p>1位 瀧川 琳花(正道館) 2位 八郷瑛美里(米倉柔道館)</p> <p>◇女子5年生(40kg級)</p> <p>1位 幸田 奈々(末吉) 2位 宮崎 蘭(光武館)</p> <p>◇女子5年生(40kg超級)</p> <p>1位 前野 彩(かわなべ) 2位 中川 葵(米倉柔道館)</p> <p>◇女子6年生(45kg級)</p> <p>1位 奥菌 聖奈(修錬館) 2位 松元 蒼華(かわなべ)</p> <p>◇女子6年生(45kg超級)</p> <p>1位 山下 里奈(南界) 2位 辰島 千夏(宇検)</p> <p>・県中学校総体(柔道競技)</p> <p>7月21日(火), 22日(水) 鹿児島アリーナ武道場</p> <p>◇団体戦(男子)</p> <p>1位 舞鶴中学校 2位 中種子中学校 3位 末吉中学校 4位 隼人中学校</p> <p>◇団体戦(女子)</p> <p>1位 伊敷中学校 2位 帖佐中学校 3位 山川中学校 4位 川辺中学校</p>
--	--

◇個人戦(男子)

◇男子(55kg級)

- 1位 富永 健斗(末吉中学校)
2位 宮崎 海人(鹿屋東中学校)

◇男子(60kg級)

- 1位 石堂 拳介(中種子中学校)
2位 小原 僚太(伊敷中学校)

◇男子(66kg級)

- 1位 近藤 航牙(舞鶴中学校)
2位 前原宗太朗(帖佐中学校)

◇男子(73kg級)

- 1位 森田 勝義(枕崎中学校)
2位 福満 仁(市来中学校)

◇男子(81kg級)

- 1位 竹下 恭平(末吉中学校)
2位 下村 柔悟(田崎中学校)

◇男子(90kg級)

- 1位 飛松 直樹(舞鶴中学校)
2位 馬場 直(里中学校)

◇男子(90kg超級)

- 1位 長野 良将(舞鶴中学校)
2位 花田 健悟(れいめい中学校)

個人戦(女子)

◇女子(44kg級)

- 1位 田中 美佳(帖佐中学校)
2位 前田 千島(財部中学校)

◇女子(48kg級)

- 1位 淵合加奈子(末吉中学校)
2位 羽生明紀子(緑丘中学校)

◇女子(52kg級)

- 1位 永田ひかり(伊敷中学校)
2位 井田 瑞穂(松元中学校)

◇女子(57kg級)

- 1位 神村 もも(枕崎別府中学校)
2位 時任 夏希(舞鶴中学校)

◇女子(63kg級)

- 1位 榎谷 有里(帖佐中学校)
2位 岡村 舞子(南九州別府中学校)

◇女子(70kg級)

- 1位 青柳 美希(舞鶴中学校)
2位 木佐貫千夏(鹿屋東中学校)

◇女子(70kg超級)

- 1位 山下 里奈(中種子中学校)
2位 福崎 舞(鹿屋東中学校)

・全国高校総体(柔道競技)

★鹿児島南高校女子3位入賞

8月8日~12日 天理大第一体育館

◇団体戦(女子)

3位 鹿児島南高等学校(2年連続)

◇個人戦男子(90kg級)

5位 富山 大介(鹿児島工業高校)

◇個人戦男子(100kg級)

5位 大王 光貴(鹿児島商業高校)

主な行事予定(10月~1月)

- 10月 8日 市高校新人柔道大会
10月24日 県選抜中学生強化練習
10月25日 妙円寺詣柔道大会
10月26日 県高校新人柔道大会~27日
11月 7日 県選抜中学生強化練習
11月15日 県下少年柔道大会
12月19日 県選抜中学生強化練習
12月20日 県スポ少競技別交歓大会
12月26日 稽古納め・忘年会
1月 9日 稽古始め
1月16日 県選抜中学生強化練習
1月23日 高校柔道選手権大会~24日
1月30日 県柔道選手権・県女子選手権

【編集後記】鹿児島県は、県民体育大会の持ち回り開催について、2010年度以降の廃止を正式に示しました。それによると今回(9月)の伊佐県体が、県体の持ち回り開催の最後となりました。10年度から鹿児島市の会場を中心に実施し、運営は、各競技団体が主管し、これまで12地区の対抗方式で競ってききましたが、総合成績は出さず競技成績のみとすることになりました。柔道の来年の開催地は、これから検討し、決定します。

なお、「県柔道会だより」第15号は、平成22年2月1日に発行の予定です。(畑添)